

平成 29 年 4 月 3 日

関係者各位

横浜国立大学教育人間科学部附属特別支援学校
校長 渡部 匡隆

平成 28 年度学校評価の結果とまとめについて

今回の学校評価（保護者及び学校評議員）について、結果とまとめを公表します。

1、方法

① 保護者向けアンケートの実施

78 名在籍中、71 名の保護者の皆様からご回答をいただき、回収率 91%でした。

② 学校評議員会での意見聴取

3 月 6 日（月）に実施された、第 2 回学校評議員会において、7 名の委員の皆様からご意見をいただきました。

2、保護者数値データ

別紙のとおりです。

概要として、A（とても思う）B（そう思う）を肯定的評価とすると、26 項目中 18 項目⁽¹⁾が 80%以上の肯定評価、そのうち 11 項目が 90%以上となりました。また、5 項目⁽²⁾が 75%～79%の肯定評価となりました。

⁽¹⁾「わかりやすい個別教育計画」「個別教育計画の保護者意見の反映」「面談での具体的な説明」「個々の目標の実現に向けた学習指導」「系統的な教科指導」「教科指導と行事のバランス」「児童生徒を理解した丁寧な対応」「授業参観等の積極的な機会の提供」「教育方針の保護者へのわかりやすい伝達」「保護者への連絡や意思疎通」「わかりやすい連絡や文書」「充実した学校生活のための施設設備」「防災や安全に関する積極的な指導」「清潔な教育環境」「人権を尊重した指導」「挨拶、電話での丁寧な対応」「相談・要望への真摯な受け入れ姿勢」「児童生徒の学校生活の充実」

⁽²⁾「個別教育計画への児童生徒への参画」「HP 等による積極的な情報の発信」「進路情報の収集提供」「保護者と連携をとった PTA 活動」「開かれた学校」

一方、3 項目が肯定的評価 69%以下となっており、C（あまり思わない）D（そう思わない）を否定的評価の割合が、「研究活動をわかりやすく伝達」が 36.6%（26 人）、「余暇支援する姿勢」が 29.6%（21 人）、「附属の価値を高める実践」が 29.6%（21 人）でした。

3、保護者意見

概要として、肯定意見として「(小) いつも丁寧な対応に安心して学校の先生にお任せで

きています」「(中) 休日に大会、愛好会で指導していただけることに感謝しています」「(高) この教育に3年間学べることに心よりうれしく思います」等多数がありました。

要望意見として、「(小) もっと教科に力を入れたほうがよい」「(小) 校外学習は以前ボランティアが多くいたが、先生だけで引率、行動できるようになったほうが良い」「(中) 中学部として社会人としての在り方を踏まえて、指導してほしい」「(中) 大変でしょうが、部活、朝活動、愛好会等の継続をお願いしたい」「(高) 学校を開くことばかりでなく中身を充実してほしい」「(高) 学校の方針が子どもに向かっていない。子どもたちに何が必要か、大事なことは何かを一番に考えてほしい」等多数がありました。また各学部からの共通としてHPの充実と研究の内容を含めた情報の発信方法について指摘がありました。

その他意見として、「(小) 人事異動が半分くらいあり、クラス全員がいなくなったクラスもあった。子どもは不安だった」「(小) 先生方の残業時間が長いと思う。プライベートを充実させてこそ、日々の実践につながる」「(中) 学部が変わると積極的に挨拶をしてくれない教員がいる」「(中) ボランティアの不参加、教員の時間外労働ということで、保護者の負担が多くなった」「(高) 学校と保護者で今後も話し合いを持ち、選ばれる学校、温かい学校へと前進していくことを願っている」「(高) わかりにくい学校、閉鎖的と外部から言われている」等多数がありました。

4、学校評議員会での意見

評議員の皆様からは、①学校周辺やケアプラザでの清掃活動、和太鼓・音楽部の演奏活動等に対する肯定的な評価とともに地域として積極的にその取組を支援していきたい、②高等部1～2年での外部資源を活用したインターシップの試行について評価する意見とともに、さらに中学部段階での取組に期待すること、③本校が地域の教員の研修の場とともに地域住民、障害のある子どもも含めたすべての子どもの交流の場になることへの期待、④他校の事例として、生徒の相談力を高める実践、地域に出向き販売する実践、PDCA サイクルの課題等の紹介、⑤学校経営方針に対する保護者との丁寧な対話の必要性の指摘、などのご意見をいただきました。

5、まとめ

○学校の取組に対する真摯な評価とともに、多様なご意見に感謝を申し上げます。本校の取組全般に概ね肯定的な評価をいただいた一方で、学校経営方針をはじめ様々な事項について、ご意見をいただきました。今年度、校長懇談会を通じて、指摘された課題は、PTA総会でお示しましたが、実現できたことがいくつもある一方で、財源や人的な制約から実現に時間を要することや困難なものもあります。これらの課題については、保護者の皆様と対話を大切にし、共通理解を進めながら検討を重ねたいと考えています。

○今回の学校評価について、学校方針の丁寧な説明の不足や研究活動に代表されるように

情報伝達の方法について、学校課題として明らかになりました。丁寧なコミュニケーションとともに、HP も含めた情報発信の工夫について、努めていきます。

○開かれた学校については、積極的なご意見と一方で、否定的な意見もありました。これについては、「開かれた学校、地域への貢献」が、全国的に附属学校としての責務となっております。今後も本校が地域において価値ある学校を目指すことが必要であり、また大規模地震災害時に周囲から多くの支援の可能性を広げるために、日頃から地域の学校として認知されていることが、重要となってきます。学校評議員会では、学校周辺やケアプラザでの清掃活動、和太鼓・音楽部の演奏活動等に対し、高い評価をいただきました。また、自治会の老人会との協働のご提案をいただいております。引き続き、地域と連携した学校経営を進めていきます。

○同時に、本校を地域の教員が研修する場として位置づけ、またインクルーシブ教育の情報発信基地への期待も、学校評議員会で示されております。積極的に発信する等、地域に根差した学校を目指したいと考えています。次年度は、県立総合教育センター及び南区と連携し、教員研修及びボランティア養成研修の企画をしています。

○本人参加の個別教育計画については、すでに事前調査票をお配りしているように、次年度より個々の児童生徒の「夢」「未来」を拓く計画として、捉えなおしていきます。可能な限り本人の願いと強みを反映させ、また本人と相談しながら進めていきます。

○学校評議員会で示された他校の実践事例として、生徒の相談力を高める実践が示されました。これは、今後社会参加する上で、「わからない時」「困った時」「悩んだ時」相談する力が重要であり、児童生徒にとって主体的に問題を解決する力となり、ひいては生活の質の向上（QOL）にもつながるという考えがベースになるものです。個別教育計画への参画に代表されるように、本人参加の視点を重視し、実践を進めていきます。

○併せて、自己実現の観点で、就労支援及びキャリア教育に重点を置き、高等部 1 年から外部機関でのインターシップの充実を目指していきます。これらについては、学校評議員会でも話題の中心事項になり、評議員からは取組が遅いという指摘とともに、積極的な応援、協力のお申し出もいただいております。中学部における外部機関でのインターシップの検討も含め、推進をしていきます。

○在校生の余暇支援については、本校の取組のひとつとして朝活動、部活動及び大会等出場がありますが、現状として職員の勤務を、PTA 余暇活動や同窓会活動（年間 4 回）も含め、ローテーション化することで、対応しています。次年度は、外部指導者の活用も含め、支

援の充実を検討していきます。

○卒業生支援として、今年度 1 年間をかけて、愛好会を同窓会活動に位置付ける調整を行ってきました。その結果、次年度は毎月 2 回、同窓会活動として学校を施設開放することや専用の使用物品保管場所の確保で、安定的な愛好会活動を支援していきます。また、卒業生の進路先事業所の販売活動に公開セミナー等も含め、積極的に協力することで、経済的な支援も継続して進めていきます。今後、PTA 活動も含め、イベント時に事業所の積極的な利用を期待しております。併せて、卒業生支援として、卒業生アフターフォローシステムを構築し、データベース化も含め充実に努めていきます。

○以上、保護者及び学校評議員会での学校評価を踏まえ、今年度の取組の振り返りとともに次年度の方向性をお示ししました。学校評議員会では、保護者アンケートで「学校方針が子どもたちに向いていない」「附属の価値が低下している」等、過去の学校方針と比較され、苦言をいただいています。一方で「時代の流れ」という観点で、本校の取組に支持もいただきました。すべての課題について、解決に至るまでにいきにくい状況もありますが、保護者や関係者の皆様と情報を共有しながら、この附属学校の価値を高める取り組みを進めていきます。今後とも本校の教育活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。